

## 一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス事業報告書

### 1 2023年度概括

- ・ 設立以来実施している連続講座「まちだづくりカレッジ」は、2022年度に引き続き「ベーシックコース」、「アドバンスコース」の2コースを実施。アドバンスコースは、市内で活動している団体同士が共通のテーマや目標を掲げ、協働しながらプロジェクト遂行する取り組みに対し、個別型のコンサルティング支援を行うコースとして新たに開設した。アドバンスコースでは、市内で活動する3団体（OMUSUBi、子ども広場あそべこどもたち、つるかわ子どもこもんず）による協働プロジェクト「子どもアクション」の支援を行った。
- ・ 新たに連続講座「わたし×困りごと＝地域ではじめる小さなしごとづくりセミナー」を実施した。個人を対象とした講座で、特に子育て世代の女性をメインターゲットとして想定して開催。地域活動の新たな層の開拓となった。
- ・ 第17回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」は、市役所会場、市民ホール会場を中心に開催。実行委員会やまちカフェ！オープンデーを活用して団体同士のマッチングを行い、期間中16件の協働事業、学生おうえん隊との協働9件が実施された。
- ・ まちカフェ！でワンデイおうえん隊、取材おうえん隊など多様な層が参加できるボランティアプログラムを実施し、26名の参加があった。20代の社会人、中学生、高校生、大学生などボランティア活動が初めてという参加者も多く、地域活動の入口のプログラムとして機能した。満足度も平均で4.3（5段階）となった。
- ・ 大学8校（授業実施、プログラム運営支援）、専門学校1校（授業実施）、高校1校（プログラム運営支援）、中学校2校（授業、プログラム運営支援）など教育機関との連携が広がった。昭和薬科大学からは、学生が地域活動を体験するプログラムの運営を受託し、昭和薬科大学の学生17名が10団体で活動を実施した。南成瀬中学校では、授業実施後、希望する生徒がまちカフェ！を取材する体験型の取り組みを実施した。
- ・ プレイリーダー養成講座（児童青少年課所管）、子ども食堂向け研修（子ども家庭支援センター所管）といった市内の活動団体のネットワーク組織からの依頼による講座を実施した。講座の実施を通じて、新たな団体との接点づくりにつながった。

事業実績経年変化

年度	相談・来訪数 (件)	サポートオフィス通信 発行部数 (年間発行回数／年間発行部数)	講座イベント 実施回数 (回)	団体の資金 調達支援数 (団体)
2019 年度	114	6／12,000	15	2
2020 年度	137	10／15,000	24	14
2021 年度	156	10／15,000	21	7
2022 年度	208	10／15,000	28	12
2023 年度	246	10／15,000	18	9
合計	861		106	44

## 2 活動日数

2023年4月1日～2024年3月31日（12ヵ月、243営業日）

## 3 事業報告

### (1) 地域活動に関するコーディネート事業

ア 相談対応【実施目標 年間150件程度 → 実績年間246件】（2022年度208件）  
来訪相談 175件、アウトリーチによる相談・ヒアリング 71件

内訳（複数選択可）

事業相談96件、意見交換／情報交換104件、助成金相談／資金獲得13件

WS等開催支援6件、設立相談8件、情報発信3件、社会貢献2件、その他22件

### イ 協働事業の支援

#### ・オープンデー

【実施目標 年10回→実績 まちカフェ！オープンデー12回、地区別オープンデー4回】

協働事業を生み出す場として、毎月第1木曜日、町田市役所2階市民協働おうえんルームにて「まちカフェ！オープンデー」を開催。本年度は、新たに地区別オープンデーとして各地区に出張して、相談会を開催した。

#### ・地区ミーティングで企画された協働事業の支援の試行

各地区で地区別オープンデー（忠生、高ヶ坂・成瀬、相原、鶴川）を実施した。高ヶ坂・成瀬地区の地区ミーティングで提案された「コガナル Base」の実施支援として「高ヶ坂・成瀬ワクワク会議」の企画・運営を実施した。鶴川地区で毎月第4金曜日に開催されている「鶴川ハッピーフライデー」「鶴川YORIAI」に継続参加し、次年度に向けて事業提案を行った。



▲高ヶ坂・成瀬ワクワク会議

## ・その他

昨年度に引き続き「まちだハッピーマルシェ」、「8050カフェ（旧8050地域情報交換）」、「わらしべワークショップ（対話型のふりかえり2回）」の運営支援を行った。その他に新たに「一反パートナー事業（企業支援型農福連携事業・シナネンホールディングス株式会社/Bamboo village farm/NPO 法人ゆどうふ/市内子ども食堂）」、玉川学園地域交通安全対策協議会、まちだ学生ボランティアミーティングの立ち上げ支援を行った。



- ・まちカフェ！オープンデーでは、新たに「Let's 協働タイム」を実施。協働を促進するために、団体のプログラムを体感してもらう場として開催。6団体が自団体のプログラムの体験企画を実施した。年度内の協働事業の実施にはならなかったが、実施団体からは、まちカフェ！に向けて事業を試行する場として効果があったという評価があった。



▲Let's 協働タイム

- ・各地区で実施した地区別オープンデー（忠生、高ヶ坂・成瀬、相原、鶴川）により、地域密着で活動する方とのつながりができ、相談者の層が広がった。
- ・高ヶ坂成瀬ワクワク会議、鶴川ハッピーフライデーを通じて、地区協議会との協働をすすめることができた。

## (2) 地域活動に関する情報収集及び発信事業

### ア 広報誌の作成

【実施目標：発行年10回／毎号1,500部 → 実績 年10回／各1,500部】

<サポートオフィス通信概要>

発行回数：10回発行（37号～46号）

体 裁：A4、4ページ

発行部数：各1,500部

配布箇所：各号約250カ所へ配布

発行時期の主力事業や団体活性化に役立つ情報について特集を組み、サポートオフィスの事業の周知と成果報告を目的として発行した。



イ ホームページの運営及びSNS等を活用した情報発信

<ホームページ> 掲載総数：111件

イベント告知記事	イベント等実施報告	団体訪問レポート	コラム	ニュース	その他
33	47	1	2	22	6

<SNS> 2024年3月末

Facebook フォロワー1,706件（前年度比 79件増）

Twitter フォロー1,048件（前年度比 44件増）

Instagram フォロワー1,229件（前年度比 220件増）

<メルマガ> サポートオフィス通信発行、講座案内等を中心に発行 年13回発行

- ▶サポートオフィス通信：NPO／市民活動団体といったサポートオフィスが最も重視する対象への知見と情報の提供を目的とした広報
  - ・サポートオフィスが参加した町田市役所広報課主催の「プレスリリース講座」を団体向けに編集した特集記事やまちカフェ！オープンデーで実施した「SDGs講座」を特集記事にするなど、サポートオフィスで収集した情報や蓄積した知見を広く共有した。
- ▶ホームページ：情報のストックを目的とした広報
  - ・本年度新たな事業者と保守契約を締結し、サポートオフィス公式HP、まちカフェ！公式HPともにセキュリティやユーザビリティの向上をすすめた。
- ▶SNS：情報の拡散を目的とした広報
  - ・Google ビジネスのプロフィール欄にイベント案内の投稿を実施し、サポートオフィスの検索性を高める施策を試行した。
  - ・まちカフェ！公式Instagramで「30日カウントダウン投稿」を実施した。20代の来場者が増加するなど効果を確認できた。

(3) 地域活動を行う組織の基盤強化及び人材育成事業

ア 講座の実施【目標年16回開催 →実績18回開催】

ー開催数内訳ー

① 団体の事業計画を策定する伴走型連続講座まちだづくりカレッジ5回

【実績：全5回×1回 成果：計画策定（ベーシック）4団体・協働事業（アドバンス）1件】

ベーシック	アドバンス
1回目 受講生がお互いを知るワーク／ビジョン、ミッション、バリューについての検討	・個別コンサルテーション 合計10回
2回目 ターゲットの検討	

3回目	ステークホルダーの検討	・ステークホルダー会議（たき火を囲む会、木下教授との意見交換） 合計2回
4回目	事業計画の策定	
5回目	最終報告会 事業計画の発表	
その他	スペシャルオープン講座 カレッジナイト（同窓会企画） 「仕事と市民活動と私」をテーマとしたゲストトークイベント	

② まちだづくりサロン特別編「調べるちから、伝えるちからを身につける ～「薄書（はくしょ）」でもいいから、「白書」を作ろう！～」【実績：1回】

③ みんなの経験共有会 【実績：6回開催】

町田市内で活動する団体・個人の経験を共有することを目的として開催。各回3～4名の登壇者と対話形式で実施した。すべて記事としてまとめサポートオフィスのホームページに掲載し、町田市内で活動する団体・個人の経験を体系化した知としてストックすることができた。

vol.11 「福祉」の枠を超えた事業に挑戦中!
vol.12 仕事と地域活動のバランスについて考える!
vol.13 ボランティアやってみた・受け入れてみた!
vol.14 企業で「地域貢献」担当をしてみた!
vol.15 専門性を生かして地域活動やってみた!★医療・福祉編★
vol.16 専門性を生かして地域活動やってみた!★保育・教育編★



▲vol.15 登壇者の皆さん

④ その他

- ・初心者さん向け Canva でつくるチラシ講座 1回
- ・公益財団法人トヨタ財団助成 公募説明会&助成金プチ講座 1回
- ・会議に参加するみんなのための 体験型ファシリテーション講座 1回
- ・まちカフェ！に活かすSDGs基礎講座 1回
- ・わたし×困りごと＝地域ではじめる小さなしごとづくりセミナー 全4回×1回
- ・参加したくなるイベントちらし作り講座～基本のき～ 1回
- ・2024年度日本郵便年賀寄付金配分説明会・助成金プチ講座 1回
- ・ブースの魅せ方講座 1回
- ・自分の「好き」を発信したくなる<SNS実践セミナー> 1回
- ・独立行政法人福祉医療機構（WAM）が実施する WAM 助成 応募説明会・助成金講座 1回
- ・その他：能登半島地震支援チャリティー上映会&お話し in 町田（2回）、stand.fm 体験会、オンラインツールなんでも相談会

- ・「まちだづくりカレッジ」は、ベーシックコース・アドバンスコースの2コースを実施。アドバンスコースは、市内で活動している団体同士が共通のテーマや目標を掲げ、協働しながらプロジェクト遂行する取り組みに対し、個別型のコンサルティング支援を行うコースとして新たに開設した。
- ・ベーシックコースの最終報告会を過去にまちだづくりカレッジを受講した「みなさんの居場所ぼくはぼく」が運営するコミュニティレストランで開催。その後、報告会参加団体が自団体のイベントの会場として同会場を活用するなど、受講生のたてのつながりも構築できた。

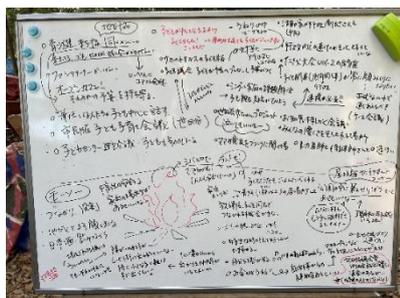


▲ベーシックコース | 最終報告会の様子



▲ベーシックコース | 報告会終了後の意見交換会の様子

- ・アドバンスコースには、市内で活動する3団体（OMUSUBi、子ども広場あそべこどもたち、つるかわ子どもこもんず）による協働プロジェクト「子どもアクション」の支援を行った。市内の子ども関係の団体の集まる意見交換会の開催に発展した。



▲アドバンスコース | せりがや冒険遊び場における意見交換会の様子とその時にたてさまざまな意見

- ・新たに講座「わたし×困りごと＝地域ではじめる小さなごとづくりセミナー」を実施した。個人を対象とした講座で、特に子育て世代の女性をメインターゲットとして想定して開催。地域活動の新たな層の開拓となった。参加者満足度は、アンケート回答者全員（4名）が「非常に満足」と回答し参加者満足度が高い講座となった。



## イ 町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」実行委員会事務局業務

【目標：協働による企画の実施年10件

実績：協働事業16事例実施、他イベントとの連携1件】

<会議開催>

準備会1回、実行委員会全体会議3回、アワード交流会1回

<情報発信>

ホームページ：イベント情報、参加団体情報、実行委員会開催レポート掲載

SNS：Facebook フォロワー 416件、Twitter フォロワー 185件

Instagram フォロワー 231件

メルマガ：実行委員会案内、報告等の内容を中心に発行 年23回発行

<本番>

オンライン及び市内各地の会場での分散開催で「まちカフェ！」を実施。

日程：2023年12月2日(土)～12月10日(日)

会場：市役所・市内各地の会場およびオンライン

主催：まちカフェ！実行委員会

共催：町田市市民協働推進課

テーマ：町田には+（プラス）がいっぱい 未来に×（カケル）新たな出会い

イベント：期間合計135イベント（うち2件はハイブリッド開催）

参加団体数：140団体（内訳：活動団体127、行政各課13課）

協賛・協力団体：21件（内訳：団体20／個人1）

## ウ まちカフェ！おうえん隊

【実施目標 学生おうえん隊市内5大学から参加 → 実績 市内2大学、近隣地域2大学、その他2大学、市内在住高校生4名】

学生おうえん隊は25名の学生が9団体で活動した。当初目標としていた市内5大学からの参加とはならなかったが、市内外5大学から参加があり、さらに本年度これまでの参加のなかった和光大学からの参加が実現。



▲町田ねこの会と学生との活動風景

誰もが参加しやすい、数時間からできるボランティア「ワンデイおうえん隊」「取材おうえん隊」は、26名+3団体（就労移行支援事業所他）が参加した。ワンデイおうえん隊は、就労移行支援事業所の就労体験の場としての参加や20代社会人、大学生など幅広い層の参加となった。取材おうえん隊は、親子連れで参加する方などもいて地域活動参加者の層が広がった。

(4) 地域活動に関する調査研究事業

ア 市内で活動する団体に対する調査

市内活動団体ヒアリング 【目標10団体→実績10団体】

アンケート実施 目標1回→実績1回

<ヒアリング>

市民協働フェスティバルまちカフェ！参加団体10団体にヒアリングを実施した。提案の一部は、2024年度の実施内容に反映する。具体的には、7月～8月のオープンデーの夜開催、まちカフェ！資料のホームページダウンロードへの集約、まちカフェ！のバリアフリーに向けた講座の開催、まちカフェ！実行委員会での資料説明動画の作成等を実施予定である。

<アンケート>

NPO 法人 CR ファクトリーの【調査協力団体】として「市民活動・コミュニティ活動の実態調査」を実施。町田市内85団体が回答した。全国のデータ分析と並行して分析をすすめ、2024年度に結果を公表予定。

イ 市内外中間支援組織へのヒアリング等 【目標3回→実績5回】

ヒアリング先	場所	ヒアリング内容
多摩8市地域情報交換会	町田市役所2階市民協働おうえんルーム	テーマ1： 日々の活動で悩んでいること テーマ2： わが市の資金（資源）支援や補助金の仕組み
八王子市市民活動支援センター	八王子市市民活動支援センター	地域活動の運営支援の一環として、資金や物品のファンドをサポートオフィスにて実施をすることを見据え、「ゆめおりファンド」、「私の地元応援ファンド」の事例についてヒアリング。
相模原市役所市民協働推進課	相模原市役所	町田市で学生の地域活動に関する表彰制度の立ち上げを検討するために相模原市市民局市民協働推進課が実施している「地域活動・市民活動ボランティア認定制度」についてヒアリング。
多摩8市地域情報交換会	府中市民活動センター プラッツ	テーマ：コロナ禍が明け、各施設・組織の変化と課題、新たな取り組み
明石コミュニティ創造協会	ウィズあかし	中間支援組織のまちづくり協議会への支援に関する取り組みについてヒアリング

ウ 支援体制の強化に向けた調査

【目標 2 団体→実績 5 団体（教育機関 2 件、企業 1 件、行政 1 件、その他 1 件）】

(5) 資金調達支援事業

ア 資金調達に関する伴走支援事業 【目標 7 団体以上→実績 9 団体】

内訳：助成金公募説明会 3 回開催

助成金応募支援 8 団体（うち 5 団体が助成決定）

クラウドファンディング実施支援 1 団体（目標達成）

イ 地域活動を支える資源の開拓と仕組みの構築

市内在住の NPO 法人を運営する方からの寄付により基金を新たに設置した。2024 年度より本基金による市内団体支援（助成事業）を実施するための書式を整備した。

(6) 法人の運営体制の強化

- ・就業規則を改定し「ハラスメントの対応」について明記した。
- ・福利厚生 of 充実を目的に退職金規定を制定した。
- ・顧問税理士への月次の収支報告方法を改善し、会計処理の仕組み化をすすめた。

(7) その他

町田市市民協働推進課以外からの講師依頼や事業委託についても積極的に受け、自主財源や知見を増やすとともにサポートオフィスの認知拡大や多様な団体との関係構築を進めた。

	依頼元	業務内容	テーマ／実施概要	担当
謝礼・委託費あり				
1	町田市市民生活安全課	企画・運営	交通安全・防犯に係る協働事業企画運営業務  市内活動団体による事業実施 16 件 (22 回)	喜田・山根
2	昭和薬科大学地域連携センター	企画・運営	昭和薬科大学学生の地域活動体験プログラム  学生 17 名 9 団体のマッチング	橋本

3	町田市中央図書館	運営支援	町田駅周辺図書館の集約に係る意見交換会の運営等支援業務	喜田・杉山・大谷
4	NPO インターンシップラボ実行委員会	運営委員・企画・進行	NPO インターンシップを実施する団体の協働事業	橋本
5	練馬区	審査委員	「地域おこしプロジェクト」事業選定審査会	喜田
6	聖学院大学	審査委員	聖学院大学ボランティア・まちづくり活動助成事業審査会	橋本
7	和光大学キャリアを考えるサークル「宮内 JAPAN」	講師	やりたいことを仕事にするには	橋本
8	法政大学社会学部	講師	「コミュニティデザイン論 I」 町田市における団地の取り組みと中間支援の役割	橋本・山根
9	町田市社会福祉協議会	講師	ふれあいサロン運営が楽しく魅力的になる！Canva プチ活用術	杉山
10	ユニコムさがみはらさがみはら地域づくり大学	講師	情報を届けたい人を徹底的に考える「ターゲットとペルソナ」／思わず参加したくなるスイッチを押す言葉「心に響くキャッチコピーを作る」	杉山
11	ユニコムさがみはらさがみはら地域づくり大学	講師	チラシづくりのための情報整理とデザインのコツ	杉山
12	法政大学ソーシャル・イノベーションセンター	講師	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ	橋本

13	中間支援機能に関する研究会	パネルディスカッション登壇	「持続可能な地域社会を実現する中間支援機能の検証と展開」第5回町田市地域活動サポートオフィスの取り組み	喜田
14	法政大学	講師	町田市内のNPO活動について	橋本
15	八王子市生涯学習センター	講師	Canva ビギナーのためのチラシ作り講座	杉山・中島
16	江戸川総合人生大学	講師	組織づくり	喜田
17	NPO 法人顧問建築家機構	司会	20周年記念事業	杉山
18	横浜市市民協働推進センター	講師	市民協働スタートアップ2023 第4回「助成金について」	喜田
19	独立行政法人福祉医療機構	企画・進行	「具体的な計画をつくるには？～助成事業実施団体の経験の語りから～」	喜田
20	聖学院大学	講師	学生時代のボランティア実践と現在の仕事との繋がりについて	橋本
21	町田市社会福祉協議会	講師	目に留まる”チラシの作り方 & Canva デモンストレーション	杉山
22	町田国際交流センター	講師	つたわる わかる チラシ作成講座	杉山
23	全国コミュニティ財団協会	審査委員	「コレクティブインパクトを生み出すローカルファンド創生事業」審査会	喜田

委託費・謝礼なし				
24	多摩大学学生社会ボランティアコーナー	講師	ボランティア活動を活かしたキャリアデザイン	橋本
25	小川高校	講師	自分の関心をアクションにする	橋本
26	南成瀬中学校	企画・講師	まちカフェ！を通して地域活動を学ぼう	橋本
27	みなみ地区社会福祉協議会	講師	チラシ作りと Canva の操作方法	杉山
28	桜美林中学校	企画・講師	授業「ソーシャルチェンジ」町田市の地域課題と地域活動	喜田・橋本
29	関西学院大学	講師	NPO で働くこと	橋本
30	子ども広場遊べ子どもたち	講師	プレイリーダー養成講座「ファシリテーションとチームビルディング」	喜田・杉山
31	町田市子ども家庭支援センター	企画・講師	子ども食堂向け研修 3回連続講座 ・ビジョン、ミッション、バリュー ・ペルソナ ・課題共有会	喜田・杉山・橋本
32	横浜リハビリテーション専門学校	講師	若者の地域活動・NPO活動	橋本

#### 4 主たる成果、課題

##### (1) 成果

- ・サポートオフィスの支援により活性化した団体は38団体、活性化の要素として「マッチング」が一番多く21件（2022年度16件）となった。本年度は、特に「一反パートナー事業」、「玉川学園地域交通安全対策協議会」、「まちだ学生ボランティアミーティング」、「まちだ子どもアクション」といったセクターを越えた協働事業の実施を支援した。いずれも相談対応のみならず、団体のコーディネート、事業の立ち上げ、運営まで継続して伴走することで事業が実現

した。開所から5年を経てサポートオフィスがコーディネートできる関係性のある団体のストックが増えたことで協働事業の支援が具体的な成果につながった。

- ・上記に関連して企業、教育機関、大学など地域活動団体以外から地域活動団体との連携についての相談も増加した。コロナ禍を経て各機関の地域連携事業が活発化したこと、5年を経てサポートオフィスの認知が広がったことがその要因と思われる。
- ・まちカフェ！参加団体は、127団体のうち31団体が初参加の団体となりコロナ禍を経て地域活動が活発化していること、またまちカフェ！が地域活動のチャレンジの場として認知が広がった結果である。
- ・長く町田市でNPOを運営している方から町田市内の地域活動の活性化を目的とした寄付のお申し出があり基金を設置した。寄付をした理由についてヒアリングしたところ、まちカフェ！の参加を通じ新たに地域活動に挑戦する方の意欲を感じたことでその挑戦について支援したいという理由であった。新たな挑戦の後押しとその可視化が重要であることを再確認した。
- ・コロナ禍を経てアート、演劇、対話の場づくりなど対面でワークショップを行う団体からの相談が増加した。また、対話的な場（研修）の開催へのニーズも高まっているので、支援経験がサポートオフィスの事業における対話の場づくりへの展開につながるという相乗効果が生まれた。
- ・市内の子ども食堂及び冒険遊び場プレイリーダー向け研修の講師依頼があった。いずれも同様の活動に取り組む団体間のネットワーク組織であり、ネットワーク参加団体同士の対話を重視した研修内容を実施。ファシリテーションの手法が団体支援だけでなく、ネットワーク支援にも有効であった。

## （2）課題

- ・個別協働事業の支援は成果があったが、一方でまちカフェ！参加団体の協働の取り組み、協働意識は若干低下している（まちカフェ！参加団体事後アンケートの数値より）。コロナ禍の活動への障壁という共通課題を乗り越えることが協働への意識醸成につながっていたと考えられる。今後改めてまちカフェ！の目的共有・共通認識の醸成が必要である。
- ・基金を設置し、次年度以降助成プログラムを開始する。基金の継続運営のための財源獲得について、次年度以降の課題となる。
- ・5年間の活動による認知拡大等により相談件数や事業支援・講座の依頼が拡大している。市内に支援を広げていくためにも各地区での地域活動支援の仕組みづくりの強化が必要である。

## 5 2024年度の支援の方向性

2023年度事業を継続・発展する形で実施。とくに、連携・協働の基盤となる対話の場の開催を重視する。また、5周年を機に新たに資金支援の仕組みを構築する。

### (1) 5年間の振り返りと成果の発信

2024年4月25日でサポートオフィス開所（設立は4月8日）から5周年を迎える。これまでの5年間の振り返りと成果の発信を行う冊子の発行及び記念イベントを開催する。また、5周年を機に、設立以来開催している団体の基盤強化プログラム「まちだづくりカレッジ」をはじめとする講座の振り返りと新たな講座の検討をすすめる。

### (2) 資金支援の仕組みの構築

寄付を原資として、町田市内の地域活動を支援する基金を新たに設置する。活動する個人・団体、応援したい個人・団体（寄付者等）の関係構築にもつながる仕組みとし、志を応援しあえるまちづくりをめざす。

### (3) 連携・協働の基盤となる対話の場を広げる

協働して取り組むべき課題（バリアフリー、SDGs等）をとりあげた講座や対話の場をまちカフェ！オープンデー（毎月第1木曜日町田市役所2階市民協働おうえんルーム）で開催し、「誰一人取り残さない」まちづくりの実現につなげる。

## 6 検討事項

### (1) まちだづくり応援基金の財源獲得について

本基金は、市内でまちづくりに取り組む個人や団体とその活動を応援したい方がつながることにより、志を応援しあえるまちづくりの実現を目的としている。基金の継続的な財源獲得に向けて、支援者の拡大が課題である。地域活動をしていない層を含めてネットワークを広げる方策について検討を進めたい。

### (2) まちだづくりカレッジのネットワーク組織での開催について

本講座は、講義とメンバー内での対話に対する伴走支援を通じて、団体のビジョン・ミッション・バリュー等を検討し、事業計画を策定することで、組織の基盤強化を図ることを目的としている。サポートオフィス設立当時から毎年実施している連続講座で、参加団体の満足度も非常に高い。受講後、事業の発展につながる団体も多い。2023年度は、子ども食堂や冒険遊び場のネットワーク組織向け講座として本講座をカスタマイズして開催し、対象団体を拡大することができ、成果につながった。限られた職員で今後も継続的に市内団体の組織基盤強化を実施していくために、市内の活動団体のネットワーク（協議会）との協働について検討を進めたい。